

おおいた市推しショット!!

初夏の風物詩のひとつ、ホテル 優し〜い光に癒されますよね♪
 右の写真は、坂ノ市地域の小佐井校区で見られる「尾田川」のホテル 小佐井校区まちづくり協議会と地元の市尾上自治会が連携して、生息環境の保護や幼虫の飼育に取り組んでいるそうです！
 また、川沿いには高校生が制作した案内看板が ！
 お越しの際は目印にどうぞ ！
 曇っていて温かく、風のおだやかな夜がホテル観賞に向いているそうです♪
 尾田川のホテルについてのお問い合わせは、坂ノ市支所 (☎592-1700)へ。
 ちなみに、表紙の野津原地域でもホテルを見ることができますよ！
 市公式SNSでは、イベント情報やまちの風景など大分市の魅力を発信中！ぜひご覧ください！



市公式 SNS



市公式 SNS はこちら▲

わが家のおかずにも！ おおいた香り野菜レシピ

みつばの簡単かき揚げ丼



みつば

みつばは、古くから日本人に愛されてきた日本原産の野菜で、その香りには、食欲増進や精神を鎮めるなどの効果があると言われています。また、カリウムやβカロテンなどが豊富*に含まれています。

※参考：日本食品標準成分表2020年版

●材料(2人分)

みつば 1束、玉ねぎ 1/2個、ベーコン 2枚
 まぶす用の天ぷら粉 大さじ4
 衣(天ぷら粉 大さじ6 + 水 大さじ6)
 ごはん、かつお削り節、しょうゆ、のり、塩 各適量

●作り方

- ①みつばを3cmの長さ、玉ねぎを薄切り、ベーコンを2cm幅に切ります。
- ②ビニール袋に、①とまぶす用の天ぷら粉を入れて口をとじ、粉をまぶします。
- ③ボウルで天ぷらの衣を作り、その中に②を入れ、混ぜ合わせます。
- ④フライパンに、深さ2cm位の油を入れて熱し、180℃になったら生地を4等分し、一つ一つ滑らせるようにして入れ、薄く広げます。
- ⑤生地を触らず2分程揚げ、上下を返します。火通りをよくするためと、揚げやすくするために、菜箸で中央に1〜2カ所刺し、穴を開けます。
- ⑥からりと揚がれば、⑤を縦にして油を切ります。
- ⑦器に温かいごはん、かつお削り節、しょうゆ、のり、⑥の順に盛り付けます。



▲大分市公式動画チャンネルでは、その他のレシピも公開中！

農政課 ☎537-7025 レシピ提供者：LOVEおおいた産クッキング 河野叔子先生(食のアトリエ kawanoの台所)

市民図書館からのお知らせ

「本の七夕飾り」を飾ります 無料

市民図書館中央カウンター前に、バンブーツリーを設置します。短冊に「お薦めの本」を記入し、飾ってください。皆さんが書いた短冊で七夕飾りを楽しみましょう。

設置期間：7月1日(金)～8月1日(月)
 ※7月11日(月)・25日(月)は休館日



市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。



そだててみたら...

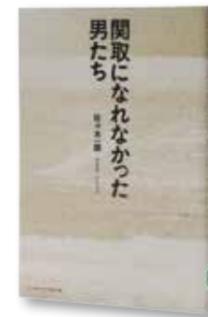
スギヤマカナヨ：作・絵
 赤ちゃんとママ社

種を育てて日誌をつける宿題で、ぼくは何か分からない種を「たねたん」と命名し育てます。雨や風の強い日は家に入れたりして大切に育てても、茎はひよろひよろ。悩んだり考えたりしながら種を育てる様子に、子育てとの共通点を感じる大人もいるのではないのでしょうか。

関取になれなかった男たち

佐々木一郎：著
 ベースボール・マガジン社

日本相撲協会に所属している現役力士は約700人、そのうち十両以上の関取はわずか70人。その関取を目前に昇進できなかった6人の力士について描かれた一冊です。あと一勝で夢を実現できなかった力士など、脚光を浴びることのなかった彼らの生きざまは心に響きます。



人権・同和教育シリーズ 522

人の生き方を考える



ひとまとめにして...

同じマンションに住んでいる、みえさん(仮名)と子どもの送迎バスを待っていたときのことで。みえさんがごみステーションを見ながら「収集日じゃないのに、またごみがある。最近外国人が引越してきたでしょ？あの人捨てているのよ」と言うのです。わたしが「そうなの？」と尋ねると「あの国の人たちってマナーが悪いから」と言い「インターネットの掲示板とかでもそういう様子がよく書き込まれているし、絶対あの人よ。本当信じられないよね」と続けたのでした。その考えはおかしいと思いつつも、わたしは何も返すことができませんでした。

その日の夜、夫に一連の話をすると「ひどいな。根拠もなく『あの国の人は』って、ひとまとめにして決めつけるなんて」と怒った様子でした。わたしがうなずいてみると、夫は「よくあるだろ？あの学校の生徒は...」で、「一部の生徒が何か問題を起す」と、その学校の生徒全員が「そうだ」といった見方や考え方を、自分もそんなふうに見られたことがあって、当時はすごく悔しかったよ」と振り返り、さらに夫から「少し前に、仕事で『やっぱり女性だから...』って言われて怒っていたじゃないか。それも同じことだろ」と言われ、ドキッとしました。わたしもひとまとめにして見られて悔しい思いをした経験があるにも関わらず、あの場では何も言えなかったのです。

「〇〇の人は□□である」とひとまとめにする見方や考え方は偏見を生み、差別へとつながることがあります。思い込みや偏見の種がないか、まずは自分を振り返ってみましょう。

「どんな国の人であつても、ルールを守る人もいれば守らない人もいます。相手のことを知らないのに、ひとまとめにして『あの人は...』って決め付けるのは、やっぱりおかしいよ。その人自身をよく見て判断することが大切じゃないかな」と夫は話してくれました。わたしのなかにも「外国人は...」という考え方があったから、あのおかしな「おかしい」と言えなかったのだと気付きました。

今日の出来事で感じたこと、そして自分の思いを、みえさんに会って話そうと思います。